

2024年度 URC 総合研究 報告書
『市民と企業の脱炭素型ライフスタイル』
～ゼロカーボンシティ福岡へ向けた行動変容に関する研究～ 発行

1. 概要

福岡アジア都市研究所(URC)では、福岡市がチャレンジを表明した2040年カーボンニュートラルの実現に向けて、市民と企業の脱炭素行動に関する調査研究を行いました。

市民に関しては、住む、働く、学ぶ人を対象に環境に関するアンケートとインタビューを実施し、**脱炭素行動に関する考えやライフステージ毎の傾向を明らかにしました。**

企業に関しては、市内事業所数の9割を占める中小企業を中心に、様々な統計データやアンケート結果の分析、関係機関へのインタビューを実施し、**事業活動における脱炭素行動の現状と課題を明らかにしました。**



レポート全文はこちら→
<https://urc.or.jp/report/publications/2024sougou-dc/>

2. メイン・ポイント

市民

- シニア期は**経済的負担**に慎重で、子育て期は**時間的制約**が大きく、現役就労期は**企業の取組みを待ち**、学生期は環境問題への関心は高いが選択できる**行動が限定的**
- 行動変容を促す施策として、各脱炭素行動とその効果の**紐づけ**や**伝え方の工夫**、学生向け**環境プロジェクト**の創出、**親子で参加**できる**環境教育**の推進などが必要

企業

- 「知る」「測る」「減らす」の3ステップのうち**「知る」の段階**が十分に進んでいない
- 脱炭素に向けた取組みは**経営上の課題解決**に繋がるものとして取り組むことが有効であり、**CO₂排出量の計測**を含む効果的な手法の特定、**同業者同士の連携**や行政など第三者機関の介入等による業種を超えた**対話の促進**などが必要

□URCのWEBサイトにて、報告書PDFを**無料公開**しています。 <https://urc.or.jp/>
□「(公財)福岡アジア都市研究所(URC)」と出典を明示すれば、報道や調査研究での引用が可能です。(著作権が第三者に帰属するコンテンツを除く)

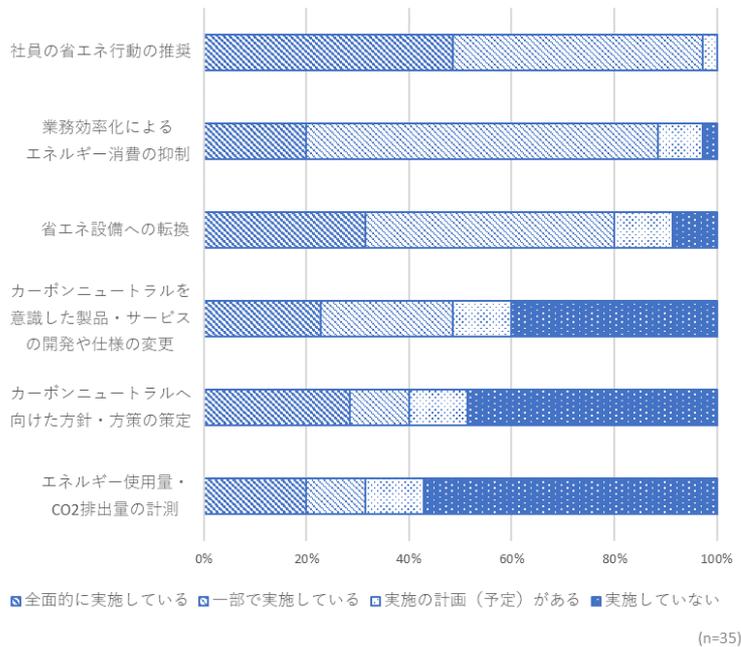
公益財団法人福岡アジア都市研究所 担当:山田
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-8-1 博多区役所 10 階
TEL: 092-710-6431 FAX: 092-710-6433 Mail: info@urc.or.jp



市民 インタビュー調査での発言の一部

	「脱炭素という言葉自体にピンとこない。」
シニア期	「シニア世代は収入の影響が大きく、経済的な観点で節電、節約に取り組むという意識が自然と働く結果がアンケートに表れているのではないか。」
子育て期	「このまま温暖化が進んでいったら、子どもは将来どんな風に過ごしているのだろうかということを考える。孫の時はどうなっているのかとか。」 「『省エネ』はよく聞かすが、『脱炭素』という言葉に馴染みがなさすぎる。」 「もしも自分がフルタイムで働いていたら環境活動に参加する時間がなくて、エシカルのことを学ぶ機会なんてなかったかもしれない」
現役就労期	「社会が変わるためには、企業が変わらなくてはいけないのではないか。日本は大きいところに倣う癖があるので、まず大きいところから始めて、その後家庭に持ち込むという流れで進めるのがよいと思う。」 「自分の行動と『脱炭素』が結び付きにくい。」
学生期	「『脱炭素』は学んだから知っている。省エネの方がよく聞く。『環境にやさしく』の方がいい。かわいいイラスト(シロクマ、犬や猫など)の方が、身近なこととして思えるかもしれない。」 「環境のためだけよりも、節約になるし環境にもいい、ということであればやりたい。」

企業 脱炭素への取組み内容と実施状況



出所：福岡アジア都市研究所「脱炭素の取組みに関する調査」（2024年11月）